



INGING MOTORSPORT



2019 SUPER FORMULA

JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Round. 1

鈴鹿サーキット

予選 4月20日(土)

天候:晴れ コース状況:ドライ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権が鈴鹿サーキットにて開幕！今季は、昨年全日本F3選手権チャンピオンでSFにステップアップして来たルーキー坪井翔（23歳）選手と2015年、2017年のシリーズチャンピオンであるベテラン石浦宏明選手の2名が、新型ダラーSF19を操り、ライバルたちとの熱い戦いを繰り広げる！！

#38 石浦宏明 14位 #39 坪井 翔 18位



いよいよ開幕戦のレースウィークを迎えた。予選日の今日は、朝から快晴、春らしいぽかぽか陽気に恵まれたサーキットには、シーズンの幕開けを待ちに待ったたくさんのファンが詰めかけた。今朝のフリープラクティスは、石浦8番手、坪井16番手。2輪のレースも併催している今大会は、路面の状況も思いの外変わるのがこの大会だ。そんな中、予選を控えた午後3時過ぎには、気温も20度を超え、路面温度は25度に達し、風が若干吹く中、オンタイムで公式予選がスタートした。今季から、公式予選のQ1通過台数は、12台、Q2通過は8台とレギュレーションが変更されている。2台共に新品ミディアムタイヤでコースインした。開始5分、39号車坪井が、1コーナーから2コーナーへ向かうアウト側の縁石に乗り過ぎバランスを崩しコースオフ。ここでクルマを降り、初めての予選アタックは、18位という結果で終わってしまう。

残り15分16秒で再開したQ1だったが、坪井と同じルーキーの7号車がスピン。2回目の赤旗が提示された。

残り11分43秒で、再開したQ1。各車、コースインするも石浦はピットで待機。残り7分をまわった所で、石浦はコースインした。スプーンでスピンが発生し3度目の赤旗の提示。この時点で、誰もアタック出来てないという何とも荒れた予選。残り5分14秒で、予選が再開し全車がコースインしたが、計測2週の予選終了までギリギリのタイミング。全開でアタックできるのは、たった1周。そのアタックで石浦の出したタイムは、1分39秒078で、14番手となり、2台ともにQ1敗退という厳しい予選結果となった。明日の決勝レースではチーム全員が最善を尽くし、少しでも順位を上げポイントの獲得を目指す。





ドライバー #38 石浦 宏明

シーズンオフから良い流れで来ていなかったのですが、今回は、このレースだけではなく、シーズンを通して、強いクルマになるようにしたいと思い臨みました。予選前は、行けるという感触があったのですが、2輪のレースがあり、コースのコンディションが変わり、若干セット変更。そこまでフィーリングは悪くなかったのですが、データで見たら、コンマ4秒くらい悪く、それがQ1を通過できなかった要因となってしまいました。しかし、Q1を通ったとしても、トップが狙えるような速さではなかったため、ドライビングとクルマのコンディションを見直したいと思います。明日は明日で気持ちを切り替えてベストを尽くしたいと思います

ドライバー #39 坪井 翔

1セット目のタイヤでアタック中に、1コーナーから2コーナーの間のアウト側で、縁石に乗り過ぎてスピンをしてしまいました。2セット目でしっかりアタックする必要があったので、戻って来なくてはいけなかったのですが、チームには申し訳ないと思っています。テストでは、スピンもなかったのに残念です。レースウィークに入り、練習走行もあまり流れが良くなく、セットアップもいろいろ変更していました。予選のセットアップについて、ガラリと変更していたので、確認したいと思っていた矢先のスピンだったので、残念です。明日は完走を目指したいと思います



監督 立川 祐路

今シーズンのこのクルマになって、2台ともセットアップが決まり切っていない状態で、今日の予選を迎えることになってしまいました。結果2台ともQ1落ちという事になってしまい、非常に残念です。でも明日に向けて、また、その先に向けて頑張っていけないといけないので、悲観せず、そして、諦めずにここからしっかり戦って行かないといけないと思っています。昨年までと比べると、クルマが変わったことで今ひとつの状態が続いているので、なんとかしたいと思っています。坪井は、ルーキーですけど、頑張っていますし、今回は、勢いあまって、アタックに入ったところで、スピンしてしまいましたが、チカラのあるドライバーということにはわかっています。彼にとっても初めてのレースなので、まず今回のレースをしっかり走り切り、次に備えたいと思います